

子どもの貧困研究のフロンティア



定例学術研究会 ＜第 48 回＞

みなさんは小学校で農業体験学習を経験したことがあるでしょうか。農作業や農村生活の体験を中心とする農業体験学習は 2000 年代には小学校の約 8 割で実践されるほど普及していました。

しかし、農業体験学習は学習指導要領に明記されておらず、また現代においては就農需要の低下のために、農業に関する知識や技能は将来の職業に直結するとは言い難い状況にあります。それにもかかわらず、農業体験学習はなぜどのようにして学校における「望ましい」教育実践とされているのでしょうか。本報告では、農業の体験が学校における「望ましい」教育実践として正統化、構成される過程に着目し、実践を担う教師や関係者の論理構造を分析します。こうした教育実践が作り上げられる過程から、学校教育における「望ましさ」や「正統性」がどのように学校現場で構築されているのかを再検討する視点を提示します。

日 時：2025 年 6 月 18 日 (水) 18:30－20:30

報 告：農業体験学習はどのように学校において「望ましい」教育実践とされるのか

報告者：渡邊 綾 先生

(子ども・若者貧困研究センター 特任研究員)

ハイブリット開催：ZOOM

対面：東京都立大学オープンユニバーシティ飯田橋キャンパス

(東京都千代田区飯田橋 3－5－1 東京区政会館 3 階 33 教室)



ZOOM 申込

https://us06web.zoom.us/meeting/register/ZMr_NlqCS1WRWvDPOjp_2w



対面申込

https://docs.google.com/forms/d/1HK894Agvw_X2y6mOZrCM5615A_FmLXdgvlySxzUIY7Y/edit

お問い合わせ

東京都立大学子ども・若者
貧困研究センター

E-mail:rccap@tmu.ac.jp